
機能水ニュースレター No. 117

2024年1月10日発行 一般財団法人機能水研究振興財団 編集担当 堀田国元・中藤誉子・清水雅俊

協力：日本機能水学会・(公財)ルイ・パストゥール医学研究センター

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-20-8 Tel: 03-5435-8501, Fax: 03-5435-8522

E-mail: kinousui-zaidan@fwf.or.jp ホームページ: <http://www.fwf.or.jp>

年頭挨拶	一般財団法人機能水研究振興財団	1
報告	日本電解水協会講演会第14回電解水セミナー	2
	三遠南信水機能活用研究会講演会	2
お知らせ	迅速検査研究会第49回定例講演会	2
	第25回日本口腔機能水学会総会・学術大会	3
	生物安全実践講習会：24年度実施予定	4

機能水関連カレンダー

生物安全実践講習会実践コース A	2024年1月20・21日	岩手県歯科医師会館(盛岡)
迅速検査研究会第49回定例講演会	2024年2月3日(火)	月島社会教育会館(東京)
日本口腔機能水学会学術大会	2024年3月9・10日(土・日)	同志社大学今出川キャンパス(京都)

年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。能登地震や航空機事故で不穏な幕開けの新年となりました。犠牲者と被災者の方々に心からのご冥福とお悔やみ・お見舞いを申し上げます。

さて、昨年はお陰様で、当財団設立30周年記念の祝賀集会を盛会裏に開催でき、また、各種の事業を実行することができました。皆さまのご支援・ご協力に改めて感謝申し上げますとともに機能水業界の更なる発展を目指す思いを新たにしております。本年もワンヘルス、健康寿命、HACCP、生活衛生、SDGs等を念頭に「生物安全実践講習会」を含め、下記のような各種の公益事業活動を展開し、機能水の科学的・社会的信用・理解の向上のために努力を重ねてまいります。さらには、30周年を記念して設けることになった「機能水記念賞」を具体化いたします。

以上、変わらぬご理解とご支援の程お願い申し上げます。

(一財)機能水研究振興財団理事長 堀田国元

- 次亜塩素酸水生成装置のJIS規格(JIS B 8701)改正：機能水研究振興財団が原案作成団体として、改正案の作成・提出を行った。その結果、2023年8月に水道電解水生成装置を包含する改正が公示された。
- 次亜塩素酸水の空間噴霧の使用指針：2020年度から始まった空間浄化プロジェクト(機能水研究振興財団)はガイドラインの作成を目標に、安全性の確認、有効性試験法の確立、有用な使用方法の標準化などについて検討が進み、成果として、先ず安全性を基調にした第一版使用指針を近々まとめ公表する作業を進めている。
- 生物安全実践講習会：ルイ・パストゥール医学研究センターと機能水研究振興財団の共同公益事業の一環として、2023年度は実践コースB(能動的な病原体取扱い者対象)を2度実施(関西と関東)、受講生から高評価を得た。また、24年1月には歯科医師を対象に盛岡にて第1回実践コースAが開催される。後述(4頁)のように2024年度は4回開催する予定である。
- 日本機能水学会：第21回学術大会が靄知光大会長のもと盛会裏に開催された(2023年10月)。今年(第22回学術大会)は東京(渋谷：長井記念館)において佐藤勉先生(東海大学医学部教授)を大会長に10月に開催される。

<報告>

日本電解水協会第14回電解水セミナー

日本電解水協会会員を対象に2023年11月29日(水)13:00~16:30、品川区立総合区民会館(きゅりあん)で開催された。

石渡幸則 代表理事・会長による開会挨拶の後、以下の講演の後、濱谷希人副会長の閉会挨拶で終了した。

特別講演：「医療現場(薬剤師作業場)における無菌操作区域の次亜塩素酸水の除菌効果」(仮)

公益財団法人 がん研究会有明病院 薬剤部 清水 久範

「電解次亜水の活用事例」：(一社)日本電解水協会 電解次亜水部会 今関 基博

「HACCPにおける強アルカリ電解水の活用について」：(一社)日本電解水協会 アルカリ性電解水委員会 松澤 竜輔

「農産物の機能性成分増加への期待」：(一社)日本電解水協会 農業部会 石渡 幸則

「飲用電解水に関する最新研究と技術応用」：(一社)日本電解水協会 飲用電解水部会 田中 賢治

三遠南信水機能活用研究会：講演会

「ノーベル賞2023講座」～ノーベル物理学賞、化学賞、医学・生理学賞を解説する～

戸田三津夫会長のアレンジにより、2023年12/17(日)午後に 静岡大学浜松キャンパスにおいて日本化学会東海支部の主催による以下の講演が行われた。

講演1 「いかにしてアト秒の光が誕生したか」 杉田 篤史 先生(静岡大学工学部 化学バイオ工学科 教授)

講演2 「『量子ドット』って、何？」 川井 秀記 先生(静岡大学工学部 化学バイオ工学科 准教授)

講演3 「新型コロナウイルス感染症に対する効果的ワクチンに繋がる mRNA 技術」

新谷 政己 先生(静岡大学工学部 化学バイオ工学科 准教授)

<お知らせ>

迅速検査研究会：第49回定例講演会

<https://jinsokukensa.com/kouen.html>

日時・会場： 2024年3月5日(火)12:30~17:20 ・月島社会教育会館(東京都中央区月島 4-1-1、月島区民センター)

参加費： 賛助会員企業・法人会員企業、機能水研究振興財団会員企業 1,000円 (※要事前登録、不課税)

申込方法： <https://onl.sc/UU9yCTE> から申込みます。

<プログラム>

13:00~13:50 【基調講演】HACCP 制度化で重要な食品安全ハザード～主要な食中毒菌の基礎知識と検査法の変遷～

迅速検査研究会副会長 森 哲也(一財)東京顕微鏡院食と環境の科学センター微生物検査部)

13:50~14:40 【特別講演】寄生虫による食中毒の予防対策と検査の考え方

国立医薬品食品衛生研究所衛生微生物部第2室室長 大西 貴弘 先生

14:40~14:55 【迅速検査研究会 賛助会員プレゼンテーション】エア・ブラウン株式会社

14:55~15:15 休憩・展示

15:15~16:05 【講演】食品安全マネジメントシステム(FSMS)における食品機械の衛生設計の考え方

(一社)日本食品機械工業会事業部 大村 宏之 先生

16:05~16:55 【講演】微生物検査・アレルゲン検査の信頼性確保に向けて～標準物質の開発と精度管理の取り組み

日本ハム株式会社 中央研究所 品質科学センター 荒川 史博 先生

問合せ先： 迅速検査研究会(旧称:ATP・迅速検査研究会)事務担当 立石、本間

第 25 回日本口腔機能水学会総会・学術大会

メインテーマ:「健口長寿を多角的視野で科学する」

サブテーマ:「機能水で医科歯科連携」

大会長: 川上智史 先生(桐生大学医療保健学部人体構造機能学 准教授)

期日・会場: 令和 6 年 3 月 9~10 日(土日)・同志社大学今出川キャンパス(京都市上京区;地下鉄烏丸線今出川駅近く)

開催形式: ハイブリッド開催(現地開催・後日オンデマンド配信)

主催・後援: 日本口腔機能水学会・一般財団法人機能水研究振興財団

参加・発表申込: 参加×切 3 月 5 日入金分まで、発表×切 1 月 31 日まで

企業展示: 会誌広告の問い合わせは、大会事務局又は学会事務局まで eメールで。

参加費: 事前登録:3 月 5 日振込確認分まで 会員 6,000 円 当日登録 7,000 円 非会員 10,000 円

振込先: 多摩信用金庫日野支店 普通預金 口座番号 2839495

名義: 日本口腔機能水学会学術大会準備事務局事務局長瀬川祐

大会準備委員長: 飯田重寿(株式会社スーパーライトウォーター 営業本部長)

大会事務局: (株)スーパーライトウォーター(東京都文京区本郷 2-31-2-2F) e-mail: 25th.kinousui2024@gmail.com

学会 HP: <http://www.kinousui.com/meeting/recent.html>

<プログラム>

第一日: 3 月 9 日(土)

14:00-14:10 開会挨拶 大会長挨拶 川上 智史(桐生大学医療保健学部栄養学科人体構造機能学准教授)

14:10-14:55 教育講演 堀田 国元 先生(一財 機能水研究振興財団) 座長 塚崎 弘明 先生

「機能水活用の新しい基盤と展望」(仮題)

15:30-16:15 特別講演 高木 弘隆 先生(国立感染症研究所安全実験管理部) 座長 川上智史 先生

「新型コロナパンデミックによる社会的な防御免疫の弱体化と季節性感染症の変革」

16:45-17:30 特別講演 野村 紘史 先生(日本臨床培養上清研究会理事長) 座長 浅野 正岳 先生

「幹細胞のセクレトームを利用した治療の現状と課題」

18:00-19:30 懇親会: ※昨今の状況を踏まえ、懇親会は開催されない場合があります。

第二日: 3 月 10 日(日)

9:30-9:40 開会式 大会長挨拶 川上 智史(桐生大学医療保健学部栄養学科人体構造機能学 准教授)

来賓挨拶 堀田 国元 先生(一財 機能水研究振興財団)

9:45-10:15 一般口演

10:30-11:45 一般口演

11:50-13:30 昼休み(13 時まで)・総会

13:30-14:15 特別講演 田中 善 先生(腸内フローラ移植臨床研究会代表理事) 座長 佐藤 勉 先生

「特殊菌液(NanoGAS®)を使用した腸内フローラ移植の有用性」(仮題)

14:20-14:50 企業ブリーフィング

15:15-16:00 特別講演 吉川 敏一 先生(公財 ルイ・パストゥール医学研究センター) 座長 井上一彦 先生

演題「」(仮題)

16:05-16:50 特別講演 福沢 嘉孝 先生(愛知医科大学 教授) 座長 川上 智史 先生

「戦略的未病予防と医科歯科連携」(仮題)

16:55-17:00 次回大会長挨拶

生物安全実践講習会：2024年度実施予定

現在、以下の3つのコースを実施し、法令を含めて、病原体の性状、取扱いおよび管理のために必要な先進的知識と技術に関する座学と実習を行っています。

1. 基盤コース：病原体基盤知識必要者（医療機器、衛生器材、機器・実験室メンテナンス、建築関係などの従事者）
2. 実践コースA：病原体接触者（歯科施設、食品施設、介護施設、関係行政機関などの従事者）
3. 実践コースB：病原体取扱者（病原体取扱実験施設、医療関係施設、大学などの従事者）

2024年度は以下のように4回の実施を予定しています。なお今後、年4回の開催を定例化する予定です。

5月 基盤コース（関東）、8月 実践コースB（関東）、10月 実践コースA（関西）、2月 実践コースB（関西）

詳細は、講習会ホームページをご覧ください。

<https://biosafetyforum.wixsite.com/seibutuanzen>



講習会受講のメリット

生物安全実践講習会を受講することで、病原体の性状、感染様式、取扱い・制御等に関する法令、適切な知識と技術の習得が可能です。その結果として、安全な仕事環境の確保、法令順守の重要性の理解、病原体取扱い・接触者の能力（知識とスキル）向上、組織の信頼性向上などにつながります。さらに、生物安全技能士資格を取得することによって、職場における衛生管理の責任者・リーダーとしての役割を担うことができるようになり、かつ講習会事務局より信頼できる最新情報を定期的に受けることができます。



生物安全実践講習会の立ち上げの経緯

私たちはウイルスや細菌などの病原性微生物と共存して生活をしているため、各種の感染症の流行などの脅威に曝されています。感染症の発生・流行は、病原体、感染経路、および宿主（ヒト）の感受性の3条件が揃って起きます。感染を回避、制御、克服するために国は、公衆衛生指導やワクチン・抗生物質の開発・導入、HACCPに沿った衛生管理を推進しています。また、今後の大問題化が予想されている薬剤耐性菌対策のために、ヒト・動物・食品・環境を総合的に関連付けた監視・制御を目的とするワンヘルス（One Health）の導入などの新しい政策を打ち出し・推進しています。さらに、コロナ禍を教訓として、感染症対策のための組織改正を進めています。

しかしながら、上記のことを踏まえて、感染制御に関連する確実な最新知識と技術を体系的に学ぶことができる教育の場が極めて限られています。そこで、（公財）ルイ・パストゥール医学研究センターと（一財）機能水研究振興財団では連携して、国立感染症研究所など公的研究機関出身の感染症専門家の協力・指導ならびに協賛関係企業の賛同を得て、感染症対策の教育の場として「生物安全実践講習会」を立ち上げ、2020年2月より始めました。